現計画（大竹市地域公共交通網形成計画）の検証について

1. 現計画の目標と計画事業

現計画では、3つの目標を掲げ、その達成に向けた事業を進めてきた。

目 標	計 画 事 業
<p>目標 1 市民生活が便利な、 移動環境の満足度が 高いまちの実現</p> <p>目標 2 持続可能な地域公共 交通サービスが暮ら しを支えるまちの実 現</p>	<p>計画事業1 暮らしを支える地域公共交通網の形成</p> <p>市民の暮らしやまちづくりを支える地域公共交通網を形成・維持するため、利便性・持続性の高い運行サービスの実施や支援、改善等を行う。</p> <p>[施策]</p> <p>(1) 路線バスの運行・改善 (2) 地域コミュニティ交通の運行・改善・導入 (3) 広原地区及び谷和地区タクシー運行補助事業 (4) 阿多田島航路の運航支援 (5) 大竹駅自由通路・橋上駅舎化等整備及び鉄道関連の取り組み</p> <p>計画事業2 地域公共交通の待合い環境などの改善</p> <p>公共交通をより便利で利用しやすい移動手段とするため、待合い環境の改善に資する取り組みを推進する。</p> <p>[施策]</p> <p>(1) バス停留所における待合い環境の整備 (2) バスロケーションシステムの導入検討</p>
<p>目標 3 地域公共交通を利用・ 応援する市民意 識が高いまちの実現</p>	<p>計画事業3 地域公共交通の利用促進施策の推進</p> <p>市民の公共交通の利用意識、運営を応援する意識を高めるため、関連情報の発信、意識醸成に資する取り組みを推進する。</p> <p>[施策]</p> <p>(1) 公共交通の利用促進に繋がる情報提供の推進 (2) 公共交通に係る意識向上に繋がる施策の推進</p>

図 目標と計画事業

2. 現計画期間の取組

現計画における各事業の主な取組内容を以下に示す。

	施策	実施主体が実施した主な取組 (令和2(2020)年4月～令和6(2024)年10月)	実施主体
計画事業1	(1) 路線バスの運行・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの運行及び支援を実施 ・大竹・栗谷線の今後のあり方について住民協議を実施 (R4、R5) ・大竹栗谷線バス車両の更新 (R5) ※交通事業者が実施 	大竹市、交通事業者
	(2) 地域コミュニティ交通の運行・改善・導入	<ul style="list-style-type: none"> ・こいこいバス、デマンド型乗合タクシーの運行及び支援を実施 ・こいこいバスに安全装置を追加整備 (R6.3) ・市制70周年記念に、こいこいバス回数券販売、バス車両にステッカー貼付、亚克力キーホルダーを作成し、PR (R6) ・こいこいバス老朽化のため、車両更新に向けた取り組み (R6) ・デマンド型乗合タクシーの見直しに向けた取り組み (R5、R6) 	大竹市、交通事業者、市民
	(3) 広原地区及び谷和地区タクシー運行補助事業	<ul style="list-style-type: none"> ・広原地区及び谷和地区タクシー運行補助制度を運用 	大竹市、交通事業者
	(4) 阿多田島航路の運航支援	<ul style="list-style-type: none"> ・阿多田島航路の運航及び支援を実施 ・新船(悠風)に更新し、記念カードを作成しPR (R5.4) ・市制70周年記念に、フェリーカードを作成しPR (R6) 	大竹市、交通事業者
	(5) 大竹駅自由通路・橋上駅舎化等整備及び鉄道関連の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5(2023)年2月に大竹駅自由通路・橋上駅舎が供用開始 	大竹市、交通事業者
計画事業2	(1) バス停留所における待合い環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・こいこいバスについて、一部のバス停留所標識の固定化実施 (R2) ・GTFS-JP(公共交通の標準的なバス情報フォーマット)を広島県広域都市圏・広島県オープンデータポータルサイト(data eye)へ提供 (R3) ・あじさいタクシーの乗降地点表示の設置 (R3) ・坂上線バス停の標識の修繕 (R4) ・バス停の安全性確保対策として、危険なバス停に該当していたバス停の一部移設 (R5.7) 	大竹市
	(2) バスロケーションシステムの導入検討	<ul style="list-style-type: none"> ・当面、実施しないこととした(業者から見積書を徴収済) 	大竹市、交通事業者
計画事業3	(1) 公共交通の利用促進に繋がる情報提供の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報誌、市ホームページに随時情報を提供 	大竹市、交通事業者
	(2) 公共交通に係る意識向上に繋がる施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・バスエコファミリーキャンペーンの実施 	大竹市、交通事業者、市民

3. 評価指標による現計画の検証

現計画では、目標達成状況を検証するための評価指標を設定している。以下に、評価指標の達成状況を示す。

目標1 市民生活が便利な、移動環境の満足度が高いまちの実現

評価指標1	市民の暮らしにおける移動環境の不満割合	
概要	○市民アンケート調査結果による、市民の暮らしにおける移動環境の満足度評価の結果（不明・無回答を除く）より算出。	
指標値	基準値（平成30(2018)年度）	13.0%
	目標値（令和5(2023)年度）	10%以下
検証	評価年（令和6(2024)年度）の指標値	15.7%
	評価	<p>不満割合は目標値よりも大きく、目標を達成できませんでした。また、基準年よりもさらに不満割合が高くなる結果となりました。</p> <p>本市では高齢化が進んでおり、そのため移動手段に困っている市民が増加したことで、不満の割合が高くなったと考えられます。これを踏まえ、市内で安心して暮らすことができる移動環境の整備・充実に努め、移動に関する不満、将来への不安を感じる市民を少なくすることが必要です。</p>

表 評価年の指標値（市民アンケートにおける移動環境の不満割合）

	総数		不明・無回答除く		『不満』の割合	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
1 満足	339	29.3%	339	30.3%	176	15.7%
2 やや満足	322	27.9%	322	28.8%		
3 どちらともいえない	282	24.4%	282	25.2%		
4 やや不満	111	9.6%	111	9.9%		
5 不満	65	5.6%	65	5.8%		
6 不明・無回答	37	3.2%	—	—		
合計	1,156	100.0%		100.0%		

目標2 持続可能な地域公共交通サービスが暮らしを支えるまちの実現

評価指標2	公共交通の利用者数（タクシー補助制度、航路を除く）		
概要	○路線バス（大竹・栗谷線と坂上線）、地域コミュニティ交通（こいこいバス、支線交通）それぞれの年間利用者数。		
指標値	基準値（平成29(2017)年度）	路線バス※1 24,167人	地域コミュニティ交通※2 155,327人
	目標値（令和4(2022)年度）	22,000人以上	155,000人以上
検証	評価年（令和5(2023)年度）の指標値	17,214人	133,987人
	評価	<p>路線バス及び地域コミュニティ交通ともに、目標を達成できませんでした。</p> <p>その大きな要因として、新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機として令和2年度から令和4年度にかけて、こいこいバスや坂上線の利用者数が減少し、その後も回復しきれていないことが挙げられます。そのため、地域公共交通の利用を促す取組の推進、また運行サービス内容が利用ニーズ等に適していない場合は、効率化や利便性向上を図るための検討及び実施が必要です。</p>	

※1：大竹・栗谷線バス、坂上線バス

※2：こいこいバス、三ツ石地区乗合タクシー、ひまわりタクシー、湯舟のりあいタクシー、栄ぐるりんタクシー、あじさいタクシー（基準年は、あじさいタクシーが未運行）

表 評価年の指標値（利用者数） 単位：人

	平成29 (2017)年度	令和5 (2023)年度
大竹・栗谷線バス	4,976	3,397
坂上線バス	19,191	13,817
合計	24,167	17,214

	平成29 (2017)年度	令和5 (2023)年度
こいこいバス	149,519	130,787
三ツ石地区乗合タクシー	1,444	891
ひまわりタクシー	807	1,057
湯舟のりあいタクシー	621	245
栄ぐるりんタクシー	※2,856(4~2月) 80(3月)	481
あじさいタクシー	—	526
合計	155,327	133,987

※平成29年度について、4~2月が栄ぐるりんバス、3月が栄ぐるりんタクシーとして運行

評価指標 3		公共交通の運賃収支率（タクシー補助制度、航路を除く）	
概要	○路線バス及び地域コミュニティ交通の運賃収支率。		
指標値	基準値（平成 29(2017)年度）	57.1%	
	目標値（令和 4(2022)年度）	50%以上	
検証	評価年（令和 5(2023)年度）の指標値	39.6%	
	評価	<p>目標を達成できませんでした。</p> <p>その大きな要因として、新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機とする利用者数の減少がその後も回復しきれていないこと、また、こいこいバスの車両の老朽化に伴う修繕費の増加や燃料費等の高騰に伴い運行経費が増加したことが挙げられます。そのため、地域公共交通の利用を促す取組の推進、また運行サービス内容が利用ニーズ等に適していない場合は、効率化や利便性向上を図るための検討及び実施が必要です。</p> <p>また、老朽化したこいこいバスの車両を更新し、経常経費を下げ、経常収益を上げることが必要です。</p>	

※2：基準年は、あじさいタクシーが未運行

表 評価年の指標値（運賃収支率） 単位：%

	平成 29 (2017)年度	令和 5 (2023)年度
大竹・栗谷線バス	13.9	10.0
坂上線バス	35.8	22.7
こいこいバス	105.9	62.0
三ツ石地区乗合タクシー	38.3	26.4
ひまわりタクシー	27.1	25.8
湯舟のりあいタクシー	31.6	28.5
栄ぐるりんタクシー	※6.0(4~2月) 33.3(3月)	22.7
あじさいタクシー	—	33.5
全体	57.1	39.6

※平成 29 年度について、4~2 月が栄ぐるりんバス、3 月が栄ぐるりんタクシーとして運行

目標3 地域公共交通を利用・応援する市民意識が高いまちの実現

評価指標 4	市広報を活用した情報発信回数	
概要	○市広報を活用した地域公共交通に係る情報（利用実態の周知や利用促進に繋がる内容等）の発信回数。	
指標値	基準値（平成 30(2018)年度）	5 回／9 か月（4 月号～12 月号）
	目標値（令和元(2019)年度～令和 5(2023)年度）	毎年 6 回以上／12 か月
検証	評価期間（令和元(2019)年度～令和 5(2023)年度）の指標値	6 回以上の発信は、5 年間のうち 4 年間
	評価	<p>毎年上回るという目標は達成できませんでしたが、評価期間 5 年間のうち 4 年間は目標値を上回りました。</p> <p>地域公共交通の利用者数の増加には、市民のみなさんへ定期的に情報を届けることで、地域公共交通を身近に感じていただくことが重要といえます。期間を通じた目標は未達成でしたが、本市では市広報による地域公共交通情報の発信が定着しており、引き続き発信を継続することが必要です。</p> <p>また、紙媒体だけではなく、市ホームページによる発信についても、行っていく必要があります。</p>

表 評価年の指標値（市広報を活用した情報発信回数）

	発信回数		発信回数
令和元(2019)年度	7 回	令和 4 (2022) 年度	6 回
令和 2 (2020) 年度	7 回	令和 5 (2023) 年度	7 回
令和 3 (2021) 年度	5 回	平均	6.4 回

評価指標 5		バスエコファミリーキャンペーン利用者数	
概 要	○バスエコファミリーキャンペーンのこいこいバス利用者数。		
指標値	基準値（平成 26(2014)年度 ～平成 30(2018)年度の平均値)	100.8 人	
	目標値（令和元(2019)年度 ～令和 5(2023)年度の平均値)	110 人以上	
検 証	評価期間（令和元(2019)年度 ～令和 5(2023)年度）の指標値	68.2 人	
	評価	<p>目標を達成できませんでした。</p> <p>その大きな要因として、新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機とする利用者数の減少が挙げられます。このキャンペーンは、地域公共交通の未来のユーザーである小学生の皆さんの利用機会を創出するものです。そのため、今後もキャンペーンを継続するとともに、情報発信の工夫等で周知を図り、より多くの小学生、ご家族に利用してもらい、利便性を体感いただくことが必要です。</p>	

表 基準年の指標値（バスエコファミリーキャンペーン利用者数）

	利用者数		利用者数
令和元(2019)年度	93 人	令和 4(2022)年度	82 人
令和 2(2020)年度	37 人	令和 5(2023)年度	72 人
令和 3(2021)年度	57 人	平 均	68.2 人